

【網走南部森林管理署】 我が署・木造建築紹介！



マツ集成材7・7mが使われており、特徴として、シンプルな形の集合体として平面設計を行った結果、自由で特徴のある平面となりました。

網走南部森林管理署庁舎は、平成16年1月に完成し、今年で築18年となりました。

構造は木造平屋建てで、カラマツ製材48・3m、カラ

おり、風除室で外部と内部空間とを区別しています。事務室はOAフロアを採用し、配線の簡素化を図り、自由な空間としています。



事務室



事務室（吹き抜け）

吹き抜けにより、事務室空間の広がりが確保されるところに、ハイサイドライントを設けて、直射日光ではなく、吹き抜けを明るくするためと、季節より異なる陽の光と風が感じられる造りとなっています。

会議室は小会議室にも対応できるように中間に可動間仕切り壁を設け会議の内容や使用目的に合わせ、3種類の照明が使い分けられています。



会議室

網走南部森林管理署は、北海道北東部のオホーツク海に面したオホーツク総合

振興局管内の南東側に位置し、東側は知床半島、南側は阿寒湖に接するまでの斜里町、清里町、清水町、網走市、大空町、美幌町、津別町の1市6町にまたがる地域の国有林約14万haを管轄しています。

管内の国有林には、世界自然遺産に登録されている知床をはじめ、知床国立公園、阿寒摩周国立公園、網走国立公園、斜里岳道立自然公園に指定されている地域があり、小清水原生花園、神の子池、小清水高原（藻琴山）、美幌峠、知床峠、斜里岳、羅臼岳などの風光明媚な景勝地も数多くあります。

このような、森林とのふれあいや生物多様性の保全、原生的な天然林の保全など、森林の公益的機能の維持増進を図るため森林の適切な管理・経営に努めています。